

2019年度 事業報告書

2019年4月 1日から

2020年3月31日まで

学校法人 年木学園

1. 法人の概要

名称 学校法人 年木学園 (昭和63年3月31日法人設立)
代表者 理事長 年木 久博
住所 大阪市淀川区野中南1丁目1番3号
電話 06-6302-6878

設置する学校

住所 大阪市淀川区野中南1丁目1番3号
名称 アケミ幼稚園

役員

理事 6名
監事 2名
評議員 13名
理事会 2回開催
評議員会 2回開催
職員 13名

2. 事業計画

(アケミ幼稚園)

《教育方針》

のびのびと自分を表現できる子どもの育成をめざします

《教育内容》

木々の自然の豊かな環境のなかで、一人ひとりに目の行きとどいた保育を心掛けています

	3歳児		4歳児		5歳児		クラス数計	園児数計
	クラス数	園児数	クラス数	園児数	クラス数	園児数		
定員	1	25	1	35	2	60	4	120
2018年度	2	32	1	31	1	32	4	95
2019年度	2	31	1	32	1	32	4	95
2020年度	2	34	1	32	1	32	4	98

《保育時間》

月・火・木・金曜日 午前9時30分～午後2時

水曜日 午前9時30分～午後12時30分

《納付金》

保育料 年額300,000円 (12分割均等納付)

給食費 月額4,000円 (実費のため変動あり)

通園バス費 月額3,000円

《入園時の費用》

入園料 50,000円

《預り保育の時間及び費用》

月・火・木・金曜日 午後5時30分まで

水曜日 午後4時まで (夏冬春休み中の預かり保育はなし)

日額 600円

《行事实施状況》

親子遠足、園外保育、七夕祭り、プール開き、お泊り保育、夏期保育(プール)、運動会、秋期遠足、移動動物園、クリスマス会、おもちゃつき、節分、ひなまつり、おゆうぎ会

《施設関係》

園地面積 1,049㎡ 運動場面積 516㎡ 園舎面積 532㎡

外部トイレ改修工事、階段手摺工事、外壁工事、点検口設置を実施。

《設備関係》

エアコン取替、ポスト設置、ワイヤレスアンプ、跳び箱、パソコン、洗濯機、非常通報装置の取得。

《借入金関係》

三井住友銀行より、園舎補修工事資金を借入、池田泉州銀行より園舎外壁塗装工事資金を借入、2,207千円返済し、期末残高は、4,363千円になった。

《事業報告》

2019年度の事業は、前年度から園児数の変動はないが、保護者の協力を得て役職員の真摯な努力により、着実に運営することができた。

2020年2月29日、安倍首相は、新型コロナウイルス感染抑制のため、3月2日から全国すべての小・中・高・特別支援校の臨時休業を発表した。更に、4月7日、緊急事態宣言を7都府県に発出し、4月17日、緊急事態宣言を全国に拡大、5月6日まで感染抑制のため、学校の臨時休業が要請された。医療機関が崩壊しないよう、感染数の推移から、5月4日、休業期限が5月末まで延長された。

この間、教育現場の再開の方策と合わせて、9月からの新学期が同時に検討されることになった。この先、予断を許さない状況が続くが、当園としては、保育再開後、園児がスムーズに過ごせるよう、保護者と連携しながら準備を怠らないようにする。

さて、2019年10月より幼児教育の無償化が実施されているが、新制度移行の流れが緩やかになり、令和2年度、195園が私学助成を継続している。

一方、新型コロナウイルスの蔓延のため、経済状況は、大恐慌時以上に悪化している。3密・自粛の影響で、飲食業・鉄道業・航空業・旅行業等のサービス業の休業実施で、失業が大幅に増加しているため、昨年来の人手不足感が大幅に緩和されている。今まで、教員免許取得者が流れていた業界においても、採用抑制となることから、教職員採用においては、やや改善することが期待できる。

以上のことを踏まえ、当園としては、幼児教育の無償化への理解を深め、事業継続を諮るため、地域の乳幼児数の推移及び教職員採用計画を改めて練り直し、5年後の事業予想（中期事業計画）を作成し、リスク管理体制を整備する。合わせて、監督官庁の調査に、しっかりと対応出来るよう、事務組織を見直し、事務管理体制の確立に努める。

自己評価については、確実に実施し公表している。また、その自己評価の内容を、学校関係者評価委員会で検討し内容を別紙のとおりまとめた。内容を精査・検討し新年度の評価項目を策定することとした。

財務面では、事業活動収支計算書より、教育活動収入計が67,435千円（前年度、63,000千円）、教育活動支出計64,933千円（前年度、53,290千円）、教育活動収支差額2,502千円（前年度9,709千円）、経常収支差額比率3.64%（前年度15.30%）と前年度から大幅に減少した。

また、人件費比率（人件費／教育活動収入計＋教育活動外収入計）は、61.64%（前年度54.08%）となり、前年度から増加した。翌年度繰越支払資金は、当年度の保持すべき資金（第4号基本金）の額を相当上回る額の支払資金を保持できているので、資金繰りは問題ない。

新年度、園児数は前年度と変わらず安定して財務状況を維持することができる。

また、当年度の卒園児は32名であるので、同数以上の園児確保を目指す。

3. 財務状況

別紙参照。

令和2年自己評価結果

1、本園の教育目標

少人数により、きめ細かな保育をおこなうことで、自信を持った心豊かなこどもに育つことを目指している。

また、遊びの中で異年齢児や先生との関わりを通して人生の基礎となるコミュニケーション能力が身につくことを目指す。

2、今年度、重点的に取り組む目標

コロナウイルスの流行を前提としてその中でどれだけ以前の保育の質を維持できるかを常に検討を迫られるのが常態化してきているが柔軟に最善の道を探っていく。

3、評価項目の達成および取り組み状況

評価項目	取り組み状況
一人一人のこどもを援助するため 全教職員が共通理解を持ち関わる。	保護者と連携し、要職員間でも個々のこども について共通に日々話し合っている。
教育の質を向上させるため、 研究保育等を充実させる。	園内研究保育を年2回行い話し合いの時間を もった。
保育内容や行事の見直しを行い 改善に努める。	保護者との懇談会を実施し、母の会との会議 も行き改善をおこなった。
コロナウイルスの影響、対処	令和2年2月以降コロナウイルスの影響により 通常の保育が出来ず感染防止の取り組み等 保育以外への対応に追われた。
延長保育の充実	夏休み中に3回延長保育を実施した

4、学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

年間行事の詳細について前年から個別に見直しを行った結果負担軽減につながりその結果保育の充実につながった。
今後も引き続き改革に努める。

5、今後取り組むべき課題

課題

具体的な取り組み方法

安全管理

コロナウイルス以後の感染症対策について
継続して検討する。

延長保育

当園として今後も方法を思考してゆく。

保育の質の向上

今までの前例に囚われることなく改善に努める

6、学校関係者の評価

評価完了次第掲載する。

7、財務状況

公認会計士監査により、適正に運営されているとみとめられている。